

令和2年度 一学期始業式

校長 大場 充

テレビのニュース番組や新聞、ネット上の情報などから、皆さんも社会の状況をよく理解していることと思います。東京の街は、少し通行人が減ったぐらいで、普段とそんなに変わりがないかもしれません。本来であれば新学期が始まり、いつもの年であれば新しいクラス、新しい友達、あたらしい学びがスタートするはずなのに、今年は違います。

東京は警戒態勢のなかにあります。罹患する人が若者では目立たないのかもしれませんが、高齢者の方にうつさない、通学時の電車の混雑を避けるために、高校生にも協力を求められているのだと思ってください。何のために学校が休業になっているのか理解できれば、不要な外出や、ましてや人ごみの中に行くようなことをしてよいはずがありません。

さて、終業式に学校は学ぶところ、とお話ししましたが、残念ながらその機会がまた遠のいてしまいました。今しばらく、自宅でできる学びを一つ一つ頑張っていくことを、校長として皆さんに要望しなければなりません。

みなさん、先のない未来などありません。いつかは明かりが見えるのです。それまで、国語の小論文や読書、数学の方程式や関数、英語や理科、商業や情報、まだまだありますが、先生たちに用意してもらった課題に取り組んでください。

この冬に受験を考えている人たちもいるでしょう。わからないことがあったら、先生に聞いてください。授業はありませんが相談することはできますから。

先生方には、学校として何ができるか、また授業を再開するときどんな授業をするのかを検討してもらっています。

若い皆さんは、もっている時間をいまこそ有効につかってください。

この1、2ヶ月でこんなことをやってみた、こんな作品をよんでみた、といえるようになって、GWに登校してくれることを期待しています。